

戦前期福岡県内の人口移動

加 藤 要 一

はじめに

近代以降の福岡県は、官営八幡製鉄所に象徴されるように近代重工業が発展した県である。その一方で、県南部の筑後地方を中心に、綿、紙、茶、藺草の生産・加工などの農村工業を中心とした在来産業が発展したのもまた事実である。その意味で、福岡県は近代産業と在来産業が並行的に発展した典型的な（また全国の府県の中でもまれな）県であろう。

本研究は、こうした特徴を持つ福岡県経済を分析するのに必要な基本的統計を、明治期から戦後にかけて、できるだけ長期間整備することが最終的な目標である。本稿は、その第一着手として戦前期福岡県の人口移動の概観を、寄留統計から明らかにすることが目的である。そのほかの物価、賃金、生産統計等については、紀要等で順次報告することにした。また人口移動の要因分析は、これら統計の整備が済んだ後、試みたい。

寄留統計

まず、ここで取り上げる寄留統計について概略⁽¹⁾を説明しておく。寄留とは本籍地以外に90日以上居住することをいい、寄留人は、本籍地に出寄留届、寄留先に入寄留届を出すことになっていた。役所はこれを「寄留簿」で管理していたが、例えばある年の入寄留人口は、その年までに入寄留した人口の合計（ストック）であり、その年に新たに入寄留してきた人口（フロー）ではない。出寄留についても同様である。さらに、寄留先を再移動

する際には、本来、元寄留地に退去届、新寄留地には入寄留届を出さなければならなかったが、実際にはこのうち入寄留届だけを出して、退去届を出さない者が多かった。この場合、本人は実際には移動した後でも、元寄留地でそのまま入寄留人口としてカウントされることとなり、こうした届出遺漏分の人口もストックとして累積していった。

府県統計書には、「本籍人口」と「現住人口」が掲載されているが、そこでは、まず本籍人口が把握され、それに入寄留と出寄留との差分を加えたものが「現住人口」となる。ところが、前述の寄留人口のストックが累積していくと、統計書上の「現住人口」と実際の現住人口との乖離が大きくなっていく。そのため、時としてこれを修正すべく寄留整理がおこなわれた。この寄留整理がおこなわれると、「現住人口」に段差が生じることになる。例えば、東京市では明治42年に寄留整理がおこなわれたため、「現住人口」が41年から42年にかけて55万人も減少している。福岡県下の福岡市、若松市、久留米市、門司市についても、現住人口の減少から、大正5年に寄留整理がおこなわれたとされている。

福岡県の寄留統計

『福岡県統計書』（各年版）には、この寄留簿に基づく各郡市ごとの出寄留・入寄留人口が「出入ノ人員」として掲載されている。本稿ではこのデータを利用する。ここでは福岡県統計書の寄留統計の記載状況の変遷と特徴について説明する。

まず、記載される統計数値の地域単位の変

遷から。福岡県では明治29年に県下の郡の統合と名称の変更が行なわれた。(本稿では、この29年変更の以前の郡を旧郡、変更後を新郡という。) 寄留統計は明治15年から掲載が始まるが、明治28年までが旧郡表示、29年以降が新郡表示である。また、門司市(明治32年市制施行、以下同じ)、小倉市(明治33年)、若松市(大正3年)、八幡市(大正6年)、戸畑市(大正13年)、大牟田市(大正6年)、直方市(昭和6年)、飯塚市(昭和7年)が人口増加とともに市制を施行し、郡から分離するたびに数値欄が増えて、元の郡の数値は段差をもって減少し、連続性が断絶することになる。また市制施行以外にも、郡下の町村の一部が中心市へ合併されるたびに、郡部の数値は減少するものと思われる。

つぎに、統計項目の変遷について。本来の最も詳細な記載項目は、

- 県外へ(から)出寄留(入寄留)・・・A
- 自県内他郡市へ(から)出寄留(入寄留)・・・B
- 自郡内他町村へ(から)出寄留(入寄留)・・・C

出寄留についてはこのほかの出寄留先として、

- 外国、植民地、陸海軍在営在鑑、監獄署、失踪・・・D

(付図) 福岡県略図(明治33年現在)新郡表示



があった。このように寄留統計のひとつの利点は、人口移動の方向が判明することである。福岡県の場合、移動の方向の区別がつくのは明治19年からであるが、A+Bの合計値とCの値の掲載であったり、あるいはA+B+Cの合計値のみの掲載であったりと、変遷が著しい。最も詳細なABCのそれぞれの数値が判明するのは、明治21~28年と、大正4年~昭和1年の二つの期間しかない。

さて、ここで寄留統計のうち長期的に時系列で得られるA+B+Cの合計値を、表1、表2に掲げる。明治21年から28年分については原資料は旧郡による表示であるため、統合された郡の数値を合計して新郡表示にあらためた。(ただし、こうした加工により、統合した郡のBとCの出入寄留の連続性がなくなる。) 一見して、どの郡市の数値も増大傾向にあることから、福岡県の場合も寄留統計が累積値であることは確認できる。だが、郡市ごと時系列に詳細に見ると、時たま前年値に対し減少している年があり、寄留整理の実施が伺える。ただ、この減少も県下一斉におこっているわけではなく、郡市ごとにばらばらである。例えば、表1において福岡市と久留米市の数値で、前年値に対し減少している年にチェックマーク(レ)を入れてみたが、合致しているのは、明治25年、38年、大正5年、7年だけであって、他の減少年は一致しない(福岡市と久留米市の場合、市町村合併による影響は、吸収する側であるので、数値が増加することはあれ、減らす要因にはならない)。また、項目別の詳細を見るために、例として、表3に門司市の男子の出寄留を掲げた。各系列とも「累積増加→段差減少」を繰り返しており、寄留整理を伺わせる。前項と同様に減少する年にチェックマークを入れたが、各項目で減少が一致しているのは明治26年、大正9年だけで、ほかの年は近似している場合もあるが一致はしていない。よって項目別、つまり寄留簿ごとに寄留整理がおこなわれた可能性が高い。また減少が1年限り

戦前期福岡県内の人口移動

表1 (県外・県内・自郡内) 他市町村へ出寄留 (男女計)

(単位 人)

和 暦	西暦	福岡市	粕屋郡	宗像郡	遠賀郡※	(若松市)	(八幡市)	(戸畑市)	(遠賀郡)	鞍手郡※	(直方市)	(鞍手郡)
明治21年	1888	2,015	1,275	1,228	1,117	-	-	-	1,117	1,097	-	1,097
明治22年	1889	3,432	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治23年	1890	3,563	1,431	1,308	1,137	-	-	-	1,137	1,059	-	1,059
明治24年	1891	3,046	1,372	1,353	1,182	-	-	-	1,182	1,185	-	1,185
明治25年	1892	2,916	1,374	1,352	1,180	-	-	-	1,180	1,372	-	1,372
明治26年	1893	2,562	1,233	1,271	1,289	-	-	-	1,289	1,339	-	1,339
明治27年	1894	2,606	1,156	1,422	1,537	-	-	-	1,537	1,478	-	1,478
明治28年	1895	2,574	1,065	1,453	1,747	-	-	-	1,747	1,411	-	1,411
明治29年	1896	3,138	1,172	1,523	1,867	-	-	-	1,867	1,506	-	1,506
明治30年	1897	3,879	1,450	1,692	2,247	-	-	-	2,247	1,478	-	1,478
明治31年	1898	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治32年	1899	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治33年	1900	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治34年	1901	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治35年	1902	8,475	2,085	2,893	4,069	-	-	-	4,069	2,672	-	2,672
明治36年	1903	9,982	2,061	3,319	4,458	-	-	-	4,458	2,473	-	2,473
明治37年	1904	11,135	2,496	3,577	4,738	-	-	-	4,738	2,909	-	2,909
明治38年	1905	11,135	2,841	4,001	6,963	-	-	-	6,963	3,498	-	3,498
明治39年	1906	8,769	3,165	4,446	7,757	-	-	-	7,757	4,026	-	4,026
明治40年	1907	9,741	3,370	4,692	8,497	-	-	-	8,497	3,845	-	3,845
明治41年	1908	10,601	3,312	5,230	9,727	-	-	-	9,727	4,458	-	4,458
明治42年	1909	11,511	3,653	5,467	10,514	-	-	-	10,514	5,425	-	5,425
明治43年	1910	8,863	3,979	5,721	11,412	-	-	-	11,412	6,576	-	6,576
明治44年	1911	9,359	4,264	6,143	12,382	-	-	-	12,382	7,527	-	7,527
大正 1 年	1912	10,739	4,589	6,406	13,554	-	-	-	13,554	8,339	-	8,339
大正 2 年	1913	10,873	5,086	6,049	15,088	-	-	-	15,088	8,816	-	8,816
大正 3 年	1914	11,768	5,335	6,224	11,892	-	-	-	11,892	9,492	-	9,492
大正 4 年	1915	15,263	7,093	9,830	14,437	2,088	-	-	12,349	12,811	-	12,811
大正 5 年	1916	15,116	7,889	11,142	17,535	3,124	-	-	14,411	14,826	-	14,826
大正 6 年	1917	16,038	9,243	11,812	20,585	3,188	3,591	-	13,806	16,612	-	16,612
大正 7 年	1918	15,314	10,694	14,761	22,802	3,015	3,802	-	15,985	21,122	-	21,122
大正 8 年	1919	16,258	11,036	14,449	22,458	3,128	3,015	-	16,315	19,489	-	19,489
大正 9 年	1920	17,020	11,074	14,522	21,911	3,214	3,407	-	15,290	20,027	-	20,027
大正10年	1921	17,441	12,044	15,860	22,691	3,456	3,195	-	16,040	19,678	-	19,678
大正11年	1922	18,433	12,517	15,921	24,916	3,460	3,783	-	17,673	20,044	-	20,044
大正12年	1923	21,302	12,704	16,685	25,082	3,638	3,796	-	17,648	21,978	-	21,978
大正13年	1924	19,504	12,947	17,955	27,094	4,218	4,133	1,915	16,828	21,763	-	21,763
大正14年	1925	20,644	13,651	19,057	29,696	4,707	4,182	2,024	18,783	25,061	-	25,061
昭和 1 年	1926	21,510	14,012	20,108	31,753	5,053	5,585	2,257	18,858	24,609	-	24,609
昭和 2 年	1927	22,574	15,242	20,521	32,280	5,635	5,595	2,423	18,627	24,185	-	24,185
昭和 3 年	1928	23,305	16,735	21,612	33,152	6,486	5,622	2,662	18,382	26,357	-	26,357
昭和 4 年	1929	25,362	16,944	22,364	34,452	7,104	6,045	2,738	18,565	26,997	-	26,997
昭和 5 年	1930	25,672	17,034	22,873	36,285	7,613	6,327	2,888	19,457	28,370	-	28,370
昭和 6 年	1931	27,424	17,188	22,825	37,626	11,075	6,981	3,147	16,423	29,897	9,129	20,768
昭和 7 年	1932	28,267	17,844	23,604	37,319	9,578	7,593	3,230	16,918	30,505	9,352	21,153
昭和 8 年	1933	29,912	18,577	23,786	42,223	10,175	10,455	3,595	17,998	30,661	9,619	21,042
昭和 9 年	1934	34,952	18,666	24,762	43,128	10,350	10,657	2,865	19,256	31,009	9,890	21,119
昭和10年	1935	35,075	19,259	24,324	45,467	10,770	11,563	3,062	20,072	33,594	13,127	20,467
昭和11年	1936	37,439	20,198	25,335	47,072	11,426	12,455	3,026	20,165	30,981	11,749	19,232
昭和12年	1937	40,497	20,167	25,181	47,826	12,220	13,771	3,033	18,802	32,962	11,681	21,281
昭和13年	1938	43,214	20,613	25,071	55,288	14,048	20,235	3,062	17,943	35,327	11,567	23,760
昭和14年	1939	45,872	20,431	25,394	55,925	14,194	20,032	3,143	18,556	35,601	11,936	23,665
昭和15年	1940	49,103	17,927	25,367	41,911	3,124	19,587	3,346	15,854	33,714	10,751	22,963

(備考) 郡名に※がつくものは、郡中の町が市制を施行し分離する前の郡範囲での数値。括弧に入った郡市名は、市制施行分離後のもの。

加 藤 要 一

表1 (県外・県内・自郡内) 他市町村へ出寄留 (男女計) (つづき)

(単位 人)

和 曆	西曆	嘉穂郡※ (飯塚市)	(嘉穂郡)	朝倉郡	筑紫郡	早良郡	糸島郡	久留米市	浮羽郡	三井郡	三潁郡	八女郡	
明治21年	1888	705	-	705	1,940	2,656	1,729	950	-	1,502	4,523	2,180	2,440
明治22年	1889	-	-	-	-	-	-	1,851	-	-	-	-	-
明治23年	1890	783	-	783	2,310	2,526	1,602	1,223	1,960	1,690	3,166	2,338	2,628
明治24年	1891	735	-	735	2,498	2,978	1,732	1,160	1,916	2,248	2,923	2,646	2,836
明治25年	1892	741	-	741	2,740	3,055	1,647	1,295	1,865	1,893	3,376	2,799	3,036
明治26年	1893	827	-	827	2,960	3,170	1,556	1,365	2,036	1,940	3,160	2,814	3,305
明治27年	1894	992	-	992	2,996	3,165	1,716	1,397	2,354	1,678	3,138	2,807	3,472
明治28年	1895	1,166	-	1,166	3,082	3,312	1,833	1,426	2,575	1,670	2,911	3,095	3,691
明治29年	1896	1,081	-	1,081	3,475	3,618	2,176	1,542	2,988	1,652	3,015	3,246	4,147
明治30年	1897	1,165	-	1,165	3,975	4,147	2,138	1,702	3,333	1,680	4,072	3,706	4,001
明治31年	1898	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治32年	1899	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治33年	1900	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治34年	1901	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治35年	1902	1,865	-	1,865	5,532	5,972	2,641	2,545	6,609	3,069	5,211	4,660	5,672
明治36年	1903	2,607	-	2,607	6,234	6,668	2,700	2,513	7,259	3,309	5,998	5,911	5,772
明治37年	1904	2,659	-	2,659	6,773	7,226	2,962	2,931	7,457	2,947	6,159	6,162	6,350
明治38年	1905	3,373	-	3,373	7,644	8,477	3,067	3,190	7,094	3,624	6,252	6,601	6,976
明治39年	1906	3,803	-	3,803	8,583	9,275	3,165	3,429	7,301	4,269	7,055	6,998	7,773
明治40年	1907	3,973	-	3,973	10,515	8,614	3,307	3,341	7,714	4,585	7,099	7,919	8,429
明治41年	1908	4,657	-	4,657	10,870	9,102	3,188	3,402	7,092	4,851	7,624	8,046	8,872
明治42年	1909	5,954	-	5,954	11,480	9,594	3,470	3,544	7,270	5,121	7,439	8,136	9,568
明治43年	1910	5,429	-	5,429	12,166	9,003	3,685	3,413	8,020	5,377	8,413	8,390	9,888
明治44年	1911	6,664	-	6,664	12,264	9,963	3,678	4,073	9,434	5,993	9,370	9,512	10,440
大正 1 年	1912	6,578	-	6,578	13,219	10,251	4,365	4,128	9,698	6,528	10,070	10,238	11,524
大正 2 年	1913	8,411	-	8,411	14,758	12,812	4,520	4,277	10,440	7,115	11,135	11,542	12,417
大正 3 年	1914	10,701	-	10,701	15,215	13,203	4,601	4,662	11,303	7,126	13,101	12,043	13,192
大正 4 年	1915	13,116	-	13,116	20,545	17,570	6,162	7,056	11,923	9,190	14,408	15,698	18,048
大正 5 年	1916	14,674	-	14,674	21,579	16,970	6,052	7,540	7,499	9,757	15,624	16,688	18,411
大正 6 年	1917	16,783	-	16,783	21,689	18,293	6,129	8,368	8,854	10,271	18,115	16,567	20,266
大正 7 年	1918	18,419	-	18,419	24,878	20,822	9,008	8,603	8,629	15,423	24,544	24,235	22,205
大正 8 年	1919	21,454	-	21,454	25,784	20,058	7,799	8,823	8,320	15,814	24,270	22,957	22,951
大正 9 年	1920	17,204	-	17,204	28,514	19,873	7,530	10,036	8,840	16,184	25,733	23,827	25,812
大正10年	1921	17,698	-	17,698	29,086	21,396	7,007	10,174	8,665	17,002	25,941	24,450	26,702
大正11年	1922	18,493	-	18,493	29,432	20,849	6,072	10,274	10,444	17,162	25,131	25,026	27,556
大正12年	1923	19,896	-	19,896	29,946	20,048	6,909	10,410	9,470	17,542	24,536	25,586	28,695
大正13年	1924	21,382	-	21,382	31,511	20,541	6,955	10,715	11,881	17,692	23,098	26,891	29,366
大正14年	1925	25,477	-	25,477	32,116	20,419	6,744	12,121	12,195	18,733	24,988	28,899	35,184
昭和 1 年	1926	24,728	-	24,728	31,745	19,975	5,764	12,548	12,938	19,137	25,043	30,209	35,554
昭和 2 年	1927	25,020	-	25,020	31,900	20,575	6,850	12,638	13,061	19,918	25,503	30,869	35,909
昭和 3 年	1928	25,414	-	25,414	32,077	16,389	6,968	13,635	13,587	20,671	25,740	31,894	36,813
昭和 4 年	1929	25,179	-	25,179	32,204	13,271	4,814	13,971	14,173	21,585	26,460	33,348	37,627
昭和 5 年	1930	25,905	-	25,905	32,204	13,119	5,193	13,566	14,562	21,323	27,435	34,803	34,341
昭和 6 年	1931	28,777	-	28,777	33,454	12,832	5,345	17,557	14,680	22,148	27,438	35,720	40,430
昭和 7 年	1932	29,773	1,381	28,392	33,580	17,435	5,857	18,271	15,231	22,902	28,200	36,936	41,456
昭和 8 年	1933	31,936	3,975	27,961	34,579	14,879	4,267	18,191	15,554	21,905	28,882	38,665	42,497
昭和 9 年	1934	35,013	4,937	30,076	35,642	15,681	4,150	19,499	15,823	22,654	28,582	40,334	43,170
昭和10年	1935	35,886	4,519	31,367	36,907	16,909	4,345	20,027	15,038	23,717	29,839	40,691	46,158
昭和11年	1936	36,848	4,469	32,379	38,399	16,355	3,492	20,499	17,407	25,022	30,196	42,032	46,395
昭和12年	1937	36,769	4,743	32,026	37,617	16,208	3,405	21,205	18,231	25,583	31,221	41,610	45,617
昭和13年	1938	38,941	7,152	31,789	37,702	16,903	3,212	21,426	19,835	24,858	32,066	42,756	47,326
昭和14年	1939	39,530	8,172	31,358	38,133	17,381	3,732	21,453	26,556	24,100	32,105	42,639	50,848
昭和15年	1940	37,476	8,002	29,474	38,974	18,804	3,928	19,017	29,825	24,135	32,687	42,136	52,437

戦前期福岡県内の人口移動

表1 (県外・県内・自郡内) 他市町村へ出寄留 (男女計) (つづき)

(単位 人)

和 暦	西暦	山門郡	三池郡※	(大牟田市)	(三池郡)	企救郡※	(小倉市)	(門司市)	(企救郡)	田川郡	京都郡	築上郡
明治21年	1888	1,720	759	-	759	1,190	-	-	1,190	760	1,765	1,667
明治22年	1889	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治23年	1890	2,127	816	-	816	1,731	-	-	1,731	851	2,322	2,088
明治24年	1891	2,128	730	-	730	1,210	-	-	1,210	968	1,862	2,177
明治25年	1892	2,580	909	-	909	1,180	-	-	1,180	968	2,332	2,279
明治26年	1893	2,669	1,126	-	1,126	1,315	-	-	1,315	963	2,429	2,059
明治27年	1894	2,783	1,270	-	1,270	1,442	-	-	1,442	996	2,374	1,986
明治28年	1895	3,013	1,057	-	1,057	1,582	-	-	1,582	1,129	2,493	2,222
明治29年	1896	3,121	1,230	-	1,230	1,982	-	-	1,982	1,280	2,843	2,496
明治30年	1897	3,258	1,508	-	1,508	2,328	-	-	2,328	1,437	3,223	2,516
明治31年	1898	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治32年	1899	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治33年	1900	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治34年	1901	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治35年	1902	5,115	3,147	-	3,147	6,789	2,869	2,195	1,725	320	4,802	4,165
明治36年	1903	5,631	3,921	-	3,921	5,107	1,978	167	2,962	2,618	5,056	4,773
明治37年	1904	5,765	4,246	-	4,246	5,608	2,254	411	2,943	3,724	5,027	5,248
明治38年	1905	6,223	4,770	-	4,770	5,595	2,567	204	2,824	3,475	5,422	5,716
明治39年	1906	7,059	5,304	-	5,304	6,736	3,317	397	3,022	3,412	6,056	5,999
明治40年	1907	6,966	5,683	-	5,683	7,544	3,347	498	3,699	4,431	6,248	6,978
明治41年	1908	7,450	6,477	-	6,477	8,591	3,681	872	4,038	4,870	6,805	7,215
明治42年	1909	8,068	7,510	-	7,510	9,140	4,312	323	4,505	5,247	6,998	8,339
明治43年	1910	8,174	7,510	-	7,510	9,785	3,733	1,046	5,006	5,962	7,795	9,167
明治44年	1911	8,679	8,084	-	8,084	10,401	4,046	1,638	4,717	7,243	10,004	9,450
大正1年	1912	9,379	8,756	-	8,756	11,711	4,229	2,013	5,469	8,485	10,996	10,549
大正2年	1913	10,103	8,501	-	8,501	12,401	4,499	2,387	5,515	9,015	9,513	10,433
大正3年	1914	11,000	9,703	-	9,703	12,417	3,800	2,781	5,836	9,097	9,714	11,223
大正4年	1915	14,600	15,379	-	15,379	13,925	4,703	2,441	6,781	14,108	11,982	11,880
大正5年	1916	14,329	12,636	-	12,636	14,794	4,747	2,947	7,100	13,569	14,397	13,683
大正6年	1917	15,029	12,211	3,079	9,132	16,872	5,276	3,199	8,397	17,032	16,685	14,918
大正7年	1918	23,295	14,561	3,299	11,262	16,857	4,870	3,321	8,666	17,775	21,761	20,678
大正8年	1919	22,914	15,029	3,396	11,633	17,848	5,077	3,752	9,019	17,497	22,210	20,209
大正9年	1920	25,062	16,727	3,648	13,079	19,932	5,426	3,421	11,085	18,369	23,364	20,860
大正10年	1921	26,162	18,335	5,579	12,756	20,816	5,419	3,237	12,160	19,930	23,759	20,086
大正11年	1922	25,896	18,936	5,927	13,009	21,089	5,682	3,045	12,362	22,863	24,583	20,671
大正12年	1923	26,411	19,976	6,298	13,678	20,822	5,852	3,274	11,696	23,675	24,442	20,173
大正13年	1924	27,527	20,103	6,465	13,638	20,833	6,111	3,413	11,309	23,816	24,931	20,824
大正14年	1925	31,602	21,616	6,920	14,696	21,714	7,358	3,577	10,779	27,825	26,896	21,881
昭和1年	1926	31,988	21,882	6,810	15,072	23,307	7,828	3,855	11,624	27,665	27,139	23,660
昭和2年	1927	32,287	24,100	8,300	15,800	25,019	9,850	4,445	10,724	27,277	27,246	23,870
昭和3年	1928	33,434	26,424	9,711	16,713	25,031	9,211	4,547	11,273	28,968	27,306	24,011
昭和4年	1929	33,562	24,209	8,956	15,253	27,124	10,771	5,750	10,603	32,637	27,671	24,588
昭和5年	1930	33,605	24,785	8,888	15,897	27,573	11,320	6,164	10,089	32,152	27,920	24,588
昭和6年	1931	34,062	26,227	9,916	16,311	31,368	11,773	8,904	10,691	33,171	28,592	25,949
昭和7年	1932	34,832	27,666	12,552	15,114	31,346	11,961	8,376	11,009	33,056	28,995	26,305
昭和8年	1933	35,207	30,805	12,978	17,827	32,744	12,378	8,745	11,621	33,682	30,652	26,527
昭和9年	1934	35,858	33,643	14,364	19,279	34,653	13,134	9,257	12,262	32,271	30,870	26,676
昭和10年	1935	32,404	35,946	16,748	19,198	34,926	14,194	9,496	11,236	36,142	32,043	27,501
昭和11年	1936	33,347	38,109	18,078	20,031	37,296	14,373	11,222	11,701	35,416	33,252	31,340
昭和12年	1937	33,863	39,949	19,218	20,731	33,968	14,612	10,300	9,056	33,029	33,234	31,586
昭和13年	1938	33,676	40,723	19,717	21,006	34,537	15,247	10,460	8,830	33,301	33,719	31,886
昭和14年	1939	34,474	41,745	20,501	21,244	36,214	16,294	10,922	8,998	35,089	32,638	32,205
昭和15年	1940	35,470	45,011	23,854	21,157	36,610	17,525	9,886	9,199	33,805	32,463	32,985

加 藤 要 一

表2 (県外・県内・自郡内) 他市町村から入寄留 (男女計)

(単位 人)

和 曆	西曆	福岡市	粕屋郡	宗像郡	遠賀郡※	(若松市)	(八幡市)	(戸畑市)	(遠賀郡)	鞍手郡※	(直方市)	(鞍手郡)
明治21年	1888	5,328	1,301	948	1,995	-	-	-	1,995	1,320	-	1,320
明治22年	1889	7,638	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治23年	1890	8,466	1,515	1,139	4,567	-	-	-	4,567	2,117	-	2,117
明治24年	1891	8,516	1,509	1,218	5,108	-	-	-	5,108	2,270	-	2,270
明治25年	1892	7,964	1,585	1,210	5,399	-	-	-	5,399	2,263	-	2,263
明治26年	1893	9,564	1,417	1,102	5,849	-	-	-	5,849	2,631	-	2,631
明治27年	1894	10,364	1,416	1,037	6,248	-	-	-	6,248	3,192	-	3,192
明治28年	1895	11,708	1,591	1,092	7,838	-	-	-	7,838	3,718	-	3,718
明治29年	1896	12,755	1,565	961	8,407	-	-	-	8,407	4,302	-	4,302
明治30年	1897	14,333	1,896	1,061	9,132	-	-	-	9,132	4,989	-	4,989
明治31年	1898	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治32年	1899	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治33年	1900	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治34年	1901	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治35年	1902	21,952	1,969	1,694	24,612	-	-	-	24,612	11,497	-	11,497
明治36年	1903	24,167	2,078	1,823	22,105	-	-	-	22,105	8,402	-	8,402
明治37年	1904	25,522	3,001	1,895	29,836	-	-	-	29,836	11,595	-	11,595
明治38年	1905	25,523	3,146	1,941	31,679	-	-	-	31,679	11,324	-	11,324
明治39年	1906	27,376	3,791	1,938	39,303	-	-	-	39,303	15,152	-	15,152
明治40年	1907	27,937	3,350	2,052	40,613	-	-	-	40,613	18,090	-	18,090
明治41年	1908	29,468	4,012	2,286	45,904	-	-	-	45,904	14,998	-	14,998
明治42年	1909	29,938	5,200	2,299	48,390	-	-	-	48,390	15,779	-	15,779
明治43年	1910	29,838	5,692	2,364	52,397	-	-	-	52,397	21,420	-	21,420
明治44年	1911	32,093	6,966	2,349	54,101	-	-	-	54,101	22,567	-	22,567
大正 1 年	1912	35,365	6,929	2,103	59,148	-	-	-	59,148	24,640	-	24,640
大正 2 年	1913	36,578	7,378	2,211	76,419	-	-	-	76,419	31,031	-	31,031
大正 3 年	1914	37,786	7,306	1,841	79,566	22,368	-	-	57,198	36,352	-	36,352
大正 4 年	1915	54,730	14,611	2,294	97,914	25,769	-	-	72,145	48,858	-	48,858
大正 5 年	1916	31,784	15,382	2,344	122,222	25,352	-	-	96,870	45,851	-	45,851
大正 6 年	1917	34,075	18,886	2,604	133,587	23,108	64,945	-	45,534	54,873	-	54,873
大正 7 年	1918	36,792	25,036	2,824	152,779	24,270	68,759	-	59,750	62,141	-	62,141
大正 8 年	1919	41,049	28,724	2,997	172,087	28,714	72,789	-	70,584	67,627	-	67,627
大正 9 年	1920	42,309	35,854	3,302	169,186	31,601	76,197	-	61,388	66,031	-	66,031
大正10年	1921	43,675	29,876	3,804	178,756	32,949	85,139	-	60,668	61,661	-	61,661
大正11年	1922	60,502	30,170	3,895	180,148	34,393	84,038	-	61,717	52,949	-	52,949
大正12年	1923	66,840	29,720	3,607	180,949	35,029	83,637	-	62,283	52,894	-	52,894
大正13年	1924	66,566	32,310	3,989	181,034	36,734	81,964	29,565	32,771	51,051	-	51,051
大正14年	1925	68,696	32,224	3,843	191,359	39,122	81,734	30,959	39,544	61,550	-	61,550
昭和 1 年	1926	72,207	36,339	4,055	195,389	41,654	89,072	29,372	35,291	62,131	-	62,131
昭和 2 年	1927	73,747	39,535	4,197	193,287	42,759	83,638	31,738	35,152	61,363	-	61,363
昭和 3 年	1928	95,478	42,159	4,917	199,711	43,847	88,081	33,355	34,428	63,244	-	63,244
昭和 4 年	1929	98,390	43,385	5,367	208,484	44,840	94,242	35,750	33,652	62,283	-	62,283
昭和 5 年	1930	108,006	45,386	5,146	235,025	44,722	113,164	39,475	37,664	59,055	-	59,055
昭和 6 年	1931	114,323	45,529	5,270	234,715	40,831	116,113	42,264	35,507	54,705	17,933	36,772
昭和 7 年	1932	121,476	47,067	5,663	234,203	39,711	117,338	44,878	32,276	54,882	17,768	37,114
昭和 8 年	1933	137,808	48,842	5,589	253,240	39,928	129,228	48,013	36,071	56,296	17,858	38,438
昭和 9 年	1934	147,593	49,817	5,755	267,868	41,813	137,318	49,066	39,671	60,083	18,042	42,041
昭和10年	1935	152,079	53,284	5,211	283,586	43,219	143,613	52,751	44,003	65,562	20,442	45,120
昭和11年	1936	159,593	55,834	4,290	302,966	46,311	151,067	56,578	49,010	63,585	19,589	43,996
昭和12年	1937	167,804	54,631	4,434	325,548	49,052	160,203	59,972	56,321	68,092	19,796	48,296
昭和13年	1938	172,848	58,417	4,765	350,289	50,891	176,580	62,831	59,987	73,162	19,913	53,249
昭和14年	1939	177,513	59,667	4,798	366,920	51,194	182,931	65,851	66,944	72,928	19,713	53,215
昭和15年	1940	189,265	54,209	6,136	376,233	53,752	182,650	68,851	70,980	76,845	21,502	55,343

(備考) 郡名に※がつくものは、郡中の町が市制を施行し分離する前の郡範囲での数値。括弧に入った郡市名は、市制施行分離後のもの。

戦前期福岡県内の人口移動

表2 (県外・県内・自郡内) 他市町村から入寄留 (男女計) (つづき)

(単位 人)

和 暦	西暦	嘉穂郡※ (飯塚市)	(嘉穂郡)	朝倉郡	筑紫郡	早良郡	糸島郡	久留米市	浮羽郡	三井郡	三潞郡	八女郡	
明治21年	1888	1,638	-	1,638	1,855	3,829	1,033	1,373	-	1,477	5,298	1,812	2,107
明治22年	1889	-	-	-	-	-	-	1,846	-	-	-	-	-
明治23年	1890	2,284	-	2,284	1,647	3,177	1,122	1,387	3,396	1,618	2,810	2,385	2,581
明治24年	1891	2,431	-	2,431	1,705	3,890	1,169	1,428	3,442	1,858	2,565	2,614	2,768
明治25年	1892	2,430	-	2,430	2,042	4,167	1,128	1,566	3,427	1,845	3,062	2,705	2,938
明治26年	1893	2,890	-	2,890	2,202	4,293	1,192	1,571	4,100	1,737	3,045	2,870	2,958
明治27年	1894	3,533	-	3,533	2,275	3,986	1,228	1,546	4,725	1,617	3,070	3,208	2,901
明治28年	1895	4,007	-	4,007	1,945	4,067	1,288	1,614	5,249	1,938	2,832	3,483	2,943
明治29年	1896	4,366	-	4,366	2,216	4,546	1,210	1,596	5,654	1,578	2,979	3,571	3,288
明治30年	1897	5,230	-	5,230	2,522	4,637	1,258	1,511	5,998	1,643	3,706	3,877	3,112
明治31年	1898	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治32年	1899	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治33年	1900	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治34年	1901	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治35年	1902	10,175	-	10,175	4,233	7,130	1,663	1,668	13,122	1,884	3,958	3,507	3,906
明治36年	1903	9,199	-	9,199	2,884	7,197	1,887	1,526	13,432	1,666	4,437	3,802	3,704
明治37年	1904	9,409	-	9,409	2,618	7,732	1,974	2,049	13,700	1,572	4,110	3,985	3,800
明治38年	1905	9,869	-	9,869	2,929	8,976	1,901	2,156	12,441	2,011	3,617	3,547	3,880
明治39年	1906	13,622	-	13,622	3,058	9,733	1,996	2,193	12,581	2,231	3,987	2,780	4,467
明治40年	1907	15,437	-	15,437	3,361	9,247	2,109	2,235	12,914	2,286	4,577	3,881	4,532
明治41年	1908	8,054	-	8,054	3,286	9,641	2,037	2,120	14,164	2,293	6,454	5,083	4,809
明治42年	1909	13,708	-	13,708	3,190	10,459	2,480	2,141	15,316	2,504	6,946	5,678	5,066
明治43年	1910	13,007	-	13,007	3,400	12,526	2,467	2,328	17,097	2,420	7,023	5,682	5,632
明治44年	1911	25,898	-	25,898	3,459	14,670	2,530	2,303	18,365	2,677	7,768	5,828	5,912
大正 1 年	1912	26,589	-	26,589	3,732	14,672	2,524	2,245	18,177	2,746	7,449	6,232	5,727
大正 2 年	1913	34,843	-	34,843	3,788	15,741	2,711	2,339	19,475	2,874	7,842	6,356	5,966
大正 3 年	1914	38,805	-	38,805	3,801	16,698	3,142	2,688	21,197	3,294	8,526	6,696	5,247
大正 4 年	1915	50,331	-	50,331	4,798	18,309	6,125	3,606	25,447	4,112	8,185	7,080	7,615
大正 5 年	1916	54,032	-	54,032	5,588	20,566	7,728	3,929	13,147	4,235	9,881	8,485	8,054
大正 6 年	1917	70,060	-	70,060	4,448	22,630	10,794	4,107	16,363	4,269	8,967	6,359	8,250
大正 7 年	1918	91,689	-	91,689	4,546	25,703	14,282	3,817	18,152	4,162	9,887	6,728	8,911
大正 8 年	1919	109,940	-	109,940	5,011	27,283	11,768	3,733	18,242	4,323	10,186	6,950	8,757
大正 9 年	1920	108,680	-	108,680	4,667	27,070	13,871	3,774	18,880	4,381	10,097	6,489	8,945
大正10年	1921	105,714	-	105,714	5,925	31,383	12,625	3,914	20,693	4,613	10,597	7,327	8,944
大正11年	1922	106,163	-	106,163	5,562	22,102	8,405	4,241	22,308	4,505	11,698	8,025	9,663
大正12年	1923	105,647	-	105,647	5,787	21,359	8,571	4,226	23,220	4,918	11,659	8,285	10,713
大正13年	1924	109,340	-	109,340	6,018	21,886	6,180	4,177	29,762	5,311	5,259	8,691	10,997
大正14年	1925	122,406	-	122,406	6,336	24,048	8,415	4,261	30,941	5,244	6,252	9,859	12,324
昭和 1 年	1926	120,453	-	120,453	6,468	23,983	7,810	4,371	30,449	5,298	5,951	10,701	12,602
昭和 2 年	1927	118,804	-	118,804	6,101	25,840	10,013	3,487	30,861	5,706	6,231	10,071	12,396
昭和 3 年	1928	126,542	-	126,542	7,159	8,794	9,258	3,587	37,252	5,872	6,053	9,318	12,506
昭和 4 年	1929	128,698	-	128,698	7,482	5,844	8,081	3,333	40,421	6,253	6,032	10,359	13,047
昭和 5 年	1930	129,274	-	129,274	7,482	6,432	8,755	4,018	38,048	6,589	6,311	10,901	7,014
昭和 6 年	1931	126,486	-	126,486	7,437	7,013	9,000	4,195	41,457	6,835	6,316	11,099	13,377
昭和 7 年	1932	122,438	25,709	96,729	7,574	13,161	9,502	4,837	43,500	7,288	5,912	11,561	13,859
昭和 8 年	1933	128,548	21,082	107,466	8,021	12,264	1,160	5,106	45,628	7,367	6,180	12,039	14,500
昭和 9 年	1934	120,591	16,808	103,783	8,044	13,562	1,160	5,018	47,563	7,781	6,204	12,433	14,706
昭和10年	1935	127,917	15,966	111,951	8,479	15,174	1,274	5,018	41,601	7,819	5,738	12,086	15,902
昭和11年	1936	138,392	20,755	117,637	8,640	14,274	1,322	4,826	44,633	8,032	5,821	12,526	16,051
昭和12年	1937	148,268	21,632	126,636	9,029	15,690	1,401	5,857	46,922	8,377	7,041	11,725	15,854
昭和13年	1938	165,642	22,616	143,026	9,800	16,430	1,186	5,985	49,224	8,353	7,174	12,349	16,845
昭和14年	1939	167,623	22,465	145,158	10,193	16,712	1,440	5,030	48,073	7,954	8,063	12,138	17,669
昭和15年	1940	164,161	21,984	142,177	11,549	20,786	1,030	4,439	52,392	7,696	8,921	12,689	18,826

表2 (県外・県内・自郡内) 他市町村から入寄留 (男女計) (つづき)

(単位 人)

和 暦	西暦	山門郡	三池郡※	(大牟田市)	(三池郡)	企救郡※	(小倉市)	(門司市)	(企救郡)	田川郡	京都郡	築上郡
明治21年	1888	1,101	3,955	-	3,955	4,117	-	-	4,117	1,458	1,621	1,267
明治22年	1889	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治23年	1890	1,752	4,195	-	4,195	7,560	-	-	7,560	2,262	1,987	1,635
明治24年	1891	2,104	6,441	-	6,441	4,590	-	-	4,590	2,525	2,070	1,838
明治25年	1892	2,235	5,062	-	5,062	7,061	-	-	7,061	2,629	2,327	1,903
明治26年	1893	2,352	6,276	-	6,276	11,249	-	-	11,249	2,765	2,642	1,844
明治27年	1894	2,611	7,330	-	7,330	14,458	-	-	14,458	4,137	2,656	1,753
明治28年	1895	2,704	6,583	-	6,583	21,069	-	-	21,069	4,539	2,956	1,821
明治29年	1896	2,203	7,386	-	7,386	24,491	-	-	24,491	4,742	3,200	2,065
明治30年	1897	1,996	8,164	-	8,164	27,199	-	-	27,199	5,033	3,449	1,681
明治31年	1898	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治32年	1899	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治33年	1900	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治34年	1901	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明治35年	1902	2,587	15,024	-	15,024	33,578	4,588	11,574	17,416	26,243	3,587	2,106
明治36年	1903	2,707	18,082	-	18,082	50,573	18,094	27,495	4,984	12,423	4,020	2,228
明治37年	1904	2,561	21,271	-	21,271	52,928	19,118	28,284	5,526	14,498	5,389	2,464
明治38年	1905	2,580	22,647	-	22,647	58,697	32,499	20,202	5,996	14,241	3,962	2,418
明治39年	1906	2,925	30,152	-	30,152	56,862	12,919	37,060	6,883	14,793	3,924	2,466
明治40年	1907	3,437	33,199	-	33,199	62,566	39,794	14,221	8,551	16,675	3,819	2,658
明治41年	1908	3,557	37,380	-	37,380	67,295	14,529	42,357	10,409	18,398	3,877	2,831
明治42年	1909	3,890	39,650	-	39,650	72,386	16,615	44,760	11,011	23,672	4,085	2,887
明治43年	1910	3,908	38,418	-	38,418	77,462	47,147	17,353	12,962	26,980	4,329	2,965
明治44年	1911	3,979	31,981	-	31,981	80,592	17,147	49,924	13,521	34,126	4,444	2,937
大正 1 年	1912	3,727	34,452	-	34,452	86,806	18,354	51,973	16,479	33,088	4,364	2,990
大正 2 年	1913	3,943	36,887	-	36,887	94,092	19,554	54,495	20,043	33,722	4,629	2,317
大正 3 年	1914	3,879	38,729	-	38,729	98,115	20,352	56,650	21,113	42,007	4,978	2,524
大正 4 年	1915	4,513	52,802	-	52,802	95,186	16,388	55,058	23,740	55,765	5,529	3,040
大正 5 年	1916	5,246	51,894	-	51,894	88,502	16,189	50,385	21,928	47,830	6,045	3,863
大正 6 年	1917	4,851	58,153	39,634	18,519	96,340	19,380	50,816	26,144	52,154	5,960	3,554
大正 7 年	1918	4,768	61,854	42,642	19,212	99,353	16,390	52,626	30,337	67,118	5,679	3,632
大正 8 年	1919	4,701	67,045	43,729	23,316	103,935	18,827	53,155	31,953	69,454	6,518	3,998
大正 9 年	1920	4,402	68,865	44,736	24,129	101,058	18,208	49,086	33,764	80,397	6,970	3,698
大正10年	1921	4,467	62,148	36,634	25,514	103,974	19,436	48,109	36,429	75,969	6,693	3,436
大正11年	1922	4,507	64,048	38,699	25,349	109,418	22,008	48,556	38,854	69,712	6,914	3,806
大正12年	1923	4,625	67,103	40,729	26,374	109,746	22,729	56,846	30,171	64,224	7,441	3,678
大正13年	1924	4,950	69,856	42,327	27,529	117,378	23,836	58,362	35,180	62,635	7,914	4,021
大正14年	1925	6,699	66,688	37,986	28,702	103,822	27,244	59,361	17,217	74,606	9,953	4,463
昭和 1 年	1926	6,960	67,934	38,692	29,242	107,328	29,319	60,220	17,789	68,056	10,371	4,743
昭和 2 年	1927	6,834	66,389	38,580	27,809	111,316	44,483	61,139	5,694	71,919	10,385	4,987
昭和 3 年	1928	6,906	67,388	38,627	28,761	117,868	47,949	64,239	5,680	71,258	11,084	5,100
昭和 4 年	1929	7,005	65,694	51,407	14,287	123,069	50,963	66,915	5,191	69,460	11,403	5,609
昭和 5 年	1930	7,114	61,024	46,618	14,406	124,386	55,582	63,093	5,711	69,782	11,794	5,609
昭和 6 年	1931	7,299	58,925	47,445	11,480	131,412	59,794	65,769	5,849	61,331	11,853	5,998
昭和 7 年	1932	7,112	55,821	44,954	10,867	137,329	62,949	68,316	6,064	62,152	11,727	6,341
昭和 8 年	1933	7,480	57,953	44,132	13,821	142,892	67,958	68,277	6,657	64,383	11,845	6,841
昭和 9 年	1934	7,473	62,351	47,517	14,834	152,252	76,297	68,694	7,261	68,466	12,677	6,869
昭和10年	1935	7,237	66,855	51,786	15,069	155,851	74,754	72,843	8,254	75,561	13,079	7,604
昭和11年	1936	7,501	71,632	55,473	16,159	158,913	75,609	74,475	8,829	72,901	13,449	7,902
昭和12年	1937	7,557	75,831	58,424	17,407	155,920	76,914	75,005	4,001	79,051	13,595	8,251
昭和13年	1938	7,348	79,433	60,953	18,480	169,001	86,933	78,004	4,064	79,136	14,412	8,775
昭和14年	1939	7,405	85,119	63,300	21,819	165,282	86,156	74,858	4,268	84,280	15,020	8,677
昭和15年	1940	7,487	89,076	65,243	23,833	189,184	105,851	78,516	4,817	92,194	15,203	8,231

戦前期福岡県内の人口移動

表3 門司市（男子）出寄留

(単位 人)

和 暦	西暦	在外国	在植民地	(追加)	県外・県内 他郡市へ出 寄留	合併情報
明治35年	1902	65	-		1,277	
明治36年	1903	6↓	-		78↓	
明治37年	1904	12	-		203	
明治38年	1905	15	-		108↓	
明治39年	1906	25	-		218	
明治40年	1907	28	-		270	
明治41年	1908	42	-	樺太	409	
明治42年	1909	110	-		172↓	
明治43年	1910	125	-	朝鮮	552	
明治44年	1911	32↓	-		979	
大正1年	1912	30↓	10		1,178	
大正2年	1913	22↓	-		1,367	
大正3年	1914	24	-		1,559	
大正4年	1915	45	-		1,280	
大正5年	1916	36↓	-		1,495	
大正6年	1917	45	-		1,684	
大正7年	1918	65	193	関東州	1,696	
大正8年	1919	61↓	141↓		1,948	
大正9年	1920	14↓	92↓		1,861↓	
大正10年	1921	14↓	102		1,743↓	
大正11年	1922	46	103		1,619↓	
大正12年	1923	55	192	南洋庁	1,738	大里町合併
大正13年	1924	58	194		1,785	
大正14年	1925	63	193		1,845	
昭和1年	1926	70	215		2,015	
昭和2年	1927	75	287		2,370	
昭和3年	1928	80	305		2,410	
昭和4年	1929	82	326		3,124	東郷村合併
昭和5年	1930	85	358		3,368	
昭和6年	1931	134	355↓		4,816	
昭和7年	1932	130↓	374		4,464	
昭和8年	1933	28↓	423		4,676	
昭和9年	1934	188	463		4,964	
昭和10年	1935	239	458		5,037	
昭和11年	1936	260	392↓		5,909	
昭和12年	1937	220↓	402		5,366↓	
昭和13年	1938	899	329↓		5,423	
昭和14年	1939	32↓	339		5,621	

ではなく、2年か3年続く例もある。これは表1、2での他郡市の例にも見えている。

以上により、福岡県の寄留整理に関して予想される注意すべき点はつぎのことである。

- (1) 寄留整理は、県下郡市において一時期一斉におこなったわけではなく、一致している場合もあるが、ばらばらに行っている場合が多い。郡市当局ごとに寄留に対する方針や処置は異なる。
- (2) 寄留整理は、1年限りではなく、複数年にわたる場合がある。
- (3) 寄留整理は、すべての寄留に関しておこなわれるのではなく、寄留簿ごと（項目ごと）におこなわれた可能性がある。

これらの点は、数値の変化から推定されることであり、現場の実務資料が発掘されれば、それと突き合わせて確認する必要があるものである。

数値の加工

地域ごとの人口の流出、流入の比較分析をおこなうため、寄留の数値の加工をおこなう必要がある。通常、累積値であるという寄留統計の特徴から、そのままではその年の寄留数を正確に捉えることはできないため、例えば、ある地域の寄留数の「対前年増加数」を、その年の「純出寄留数」（フロー）とすることが、他研究における分析の常套手段となっている⁽²⁾。そして地域間の比較のため、純出寄留率＝純出寄留／本籍人口×10000、つまり本籍人口1万人あたりの出寄留数を各郡市ごとに算出するのである。だが、福岡県の寄留統計の場合、前述のような特徴があることから、工夫が必要である。まず、寄留整理が複数年にまたがり、また実施時期も郡市ごとにばらばらなので、比較のためには単年ごとの数値ではだめで、一定期間の数値を取り平均する必要がある。また寄留整理による減少を機械的に取り除く必要がある。具体的には、ある「一定期間」において、

1年当たりの純出寄留＝対前年比がプラスになった増加分の合計／対前年比がプラスになった年数、とし、下式に代入するのである。

$$\text{純出寄留率} = \frac{\text{純出寄留}}{\text{期間中央の本籍人口} \times 10000}$$

「一定期間」については、表1・2において、数値の存在する期間と、景気変動などの経済情勢を考慮して、つぎの期間をとった。

- I期 明治23（1890）年～明治30（1897）年
明治中期
- II期 明治35（1902）年～明治44（1911）年
明治後期
- III期 大正1（1912）年～大正9（1920）年
大正前期（第一次大戦による好況）
- IV期 大正10（1921）年～昭和5（1930）年
大正～昭和期（戦後恐慌と昭和恐慌）
- V期 昭和6（1931）年～昭和15（1940）年
昭和戦前期（景気回復期）

つぎに、市町村合併による影響の処理である。郡より市が分離され、市の数値が別掲される場合は郡市双方の数値を合計することにより、旧郡域で連続した数値が得られる。しかし、福岡市の周辺部（早良郡・筑紫郡）、久留米市の周辺部（三井郡・三潞郡）など、市周辺の郡の一部が市街地化されたため、市部へ吸収される場合、その吸収される区域だけの数値は得られず、補正も難しい。そのため次善の策として、数値の段差を取り除くことだけをおこなった。すなわち『市町村名変遷系統図総覧』（原書房）によって合併のあった年の分離・併合双方の郡市の数値は除外することにした。この場合、区域の連続した数値ではないことを承知して使う必要がある。

以上の計算結果を表4・5に掲げた。

全期間における傾向

表4で純出寄留率、表5で純入寄留率の長期的な推移を概観しておこう。

まず、都市について。福岡市、久留米市を

戦前期福岡県内の人口移動

表4 純出寄留率（本籍人口1万人当・1年当）

期	I	II	III	IV	V
年	明治23(1890)年 } 明治30(1897)年	明治35(1902)年 } 明治44(1911)年	大正1(1912)年 } 大正9(1920)年	大正10(1921)年 } 昭和5(1930)年	昭和6(1931)年 } 昭和15(1940)年
福岡市	91	165	160	105	121
粕屋郡	26	56	116	82	62
宗像郡	20	68	222	137	100
遠賀郡※	30	105	194	97	105
(若松市)	-	-	170	191	158
(八幡市)	-	-	-	51	240
(戸畑市)	-	-	-	138	76
(遠賀郡)	30	105	-	142	103
鞍手郡※	25	104	202	173	113
(直方市)	-	-	-	-	234
(鞍手郡)	25	104	202	173	173
嘉穂郡※	17	85	223	115	121
(飯塚市)	-	-	-	-	560
(嘉穂郡)	17	85	223	115	127
朝倉郡	28	77	169	44	68
筑紫郡	41	92	253	101	249
糸島郡	17	48	98	59	121
早良郡	58	46	219	136	140
久留米市	120	192	191	108	286
浮羽郡	35	65	161	78	89
三井郡	71	60	201	66	55
三潞郡	25	49	183	87	85
八女郡	21	42	124	87	122
山門郡	20	49	239	92	61
三池郡※	40	94	233	106	150
(大牟田市)	-	-	-	205	203
(三池郡)	40	94	-	102	154
企救郡※	37	89	114	66	94
(小倉市)	-	201	166	162	111
(門司市)	-	272	151	67	155
(企救郡)	37	108	118	117	91
田川郡	22	144	186	166	118
京都郡	48	97	243	64	92
築上郡	22	78	213	72	90

(備考) 郡名に※がつくものは、郡中の町が市制を施行し分離する前の郡範囲での数値。括弧に入った郡市名は、市制施行分離後のもの。

表5 純入寄留率 (本籍人口1万人当・1年当)

期	I	II	III	IV	V
年	明治23(1890)年	明治35(1902)年	大正1(1912)年	大正10(1921)年	昭和6(1931)年
	明治30(1897)年	明治44(1911)年	大正9(1920)年	昭和5(1930)年	昭和15(1940)年
福岡市	215	215	560	381	348
粕屋郡	39	118	634	315	233
宗像郡	17	18	38	59	55
遠賀郡※	104	453	1,262	507	858
(若松市)	-	-	1,559	640	421
(八幡市)	-	-	-	2,254	1,012
(戸畑市)	-	-	-	1,954	1,458
(遠賀郡)	104	453	-	435	638
鞍手郡※	89	404	785	460	318
(直方市)	-	-	-	-	214
(鞍手郡)	89	404	785	460	391
嘉穂郡※	82	528	1,101	440	625
(飯塚市)	-	-	-	-	855
(嘉穂郡)	82	528	1,101	440	750
朝倉郡	24	21	36	38	37
筑紫郡	44	124	204	218	326
糸島郡	20	42	77	66	199
早良郡	10	28	293	179	25
久留米市	178	286	517	412	391
浮羽郡	35	32	32	39	30
三井郡	46	73	77	64	40
三潞郡	24	46	38	58	32
八女郡	11	22	50	41	78
山門郡	23	21	52	29	15
三池郡※	247	534	437	185	308
(大牟田市)	-	-	-	300	373
(三池郡)	247	534	-	140	264
企救郡※	612	717	524	310	544
(小倉市)	-	7,752	826	1,108	1,101
(門司市)	-	11,791	682	312	405
(企救郡)	612	203	458	394	92
田川郡	75	438	860	480	326
京都郡	35	60	65	69	44
築上郡	22	17	42	33	42

(備考) 郡名に※がつくものは、郡中の町が市制を施行し分離する前の郡範囲での数値。括弧に入った郡市名は、市制施行分離後のもの。

戦前期福岡県内の人口移動

はじめ県下の市は、純出寄留率、純入寄留率ともに高く、都市における人口の流入・流出の激しさを物語る。ただ、純出寄留率と純入寄留率とを比べると、後者が一貫して高く、商業や都市内工業などの人口吸引力の高さを伺わせる。

また、炭鉱地帯である粕屋郡、遠賀郡、鞍手郡、嘉穂郡、三池郡、田川郡や、重工業地帯となる北九州地域（若松市・八幡市・戸畑市・小倉市・門司市）も都市と同様に純入寄留率のほうが高い傾向がある。しかも数値を見ると福岡市より高い場合が多く、鉱工業の人口吸引力は格段に大きかったのである。

時期的変遷を見ると、純出寄留率では、Ⅱ期からⅢ期にかけて農村地域を含めて200近くまで増大して、Ⅳ期とⅤ期で低下する傾向にある。一方、純入寄留率では、Ⅲ期に炭鉱

地帯、重工業地帯を中心に数値が高くなり、Ⅳ期とⅤ期で低下する傾向となり、この両者間の出入の相関が伺える。つまり、Ⅲ期の時期は炭鉱と重工業の発展にともない、農村地帯からの人口流出が促進され、これを炭鉱と重工業が吸収したのであり、戦前の福岡県にとってこの時期（大正初期～第一次大戦による大戦景気まで）が、県内の地域編成が大きく進展した時期であったと言えるであろう。

ところで、農村地帯に目を向けてみると、全体的に純入寄留率が低いのは、他地域から労働力を吸引するような産業が立地していないため、当然であろう。だが純出寄留率では、例えば八女郡などは比較的低いレベルにあり、この地域に展開した在来産業に「人口保持力」があったとも考えられる。

表6 1889-1897純出寄留率
(本籍人口1万人当, 1年当)

	(自郡内) 他町村へ	(自県内) 他郡市へ	他道府県へ
福岡市		83	36
粕屋郡	4	17	5
宗像郡	4	15	5
遠賀郡※	11	14	6
鞍手郡※	13	7	4
嘉穂郡※	8	8	3
朝倉郡	4	22	8
筑紫郡	9	29	15
糸島郡	11	13	6
早良郡	12	43	19
久留米市		74	50
浮羽郡	11	23	8
三井郡	17	31	19
三潁郡	6	14	8
八女郡	7	6	11
山門郡	16	12	12
三池郡※	20	10	8
企救郡※	8	11	15
田川郡	8	8	5
京都郡	13	29	20
築上郡	4	12	10

※印の郡は、市分離前の郡域。

表7 1889-1897純入寄留率
(本籍人口1万人当, 1年当)

	(自郡内) 他町村から	(自県内) 他郡市から	他道府県 から
福岡市		153	95
粕屋郡	-	16	14
宗像郡	4	23	7
遠賀郡※	20	33	77
鞍手郡※	12	32	43
嘉穂郡※	11	36	32
朝倉郡	14	15	4
筑紫郡	11	44	7
糸島郡	5	12	4
早良郡	26	48	9
久留米市		202	54
浮羽郡	3	24	5
三井郡	18	25	6
三潁郡	6	12	10
八女郡	9	8	4
山門郡	9	10	11
三池郡※	80	69	60
企救郡※	60	197	414
田川郡	34	48	30
京都郡	18	24	16
築上郡	5	10	6

※印の郡は、市分離前の郡域。

表 8 1916-1926純出寄留率
(本籍人口1万人当, 1年当)

	(自郡内) 他町村へ	(自県内) 他都市へ	他道府県 へ
福岡市		77	59
粕屋郡	28	55	21
宗像郡	55	162	46
(若松市)		117	123
(八幡市)		62	91
(遠賀郡)	37	82	57
鞍手郡※	39	126	58
嘉穂郡※	90	68	49
朝倉郡	13	91	36
筑紫郡	21	94	30
糸島郡	14	45	28
早良郡	84	142	65
久留米市		102	112
浮羽郡	33	92	38
三井郡	16	139	46
三潞郡	15	83	56
八女郡	32	65	28
山門郡	20	131	67
(大牟田市)		76	46
(三池郡)	52	81	57
(小倉市)		54	99
(門司市)		58	68
(企救郡)	32	64	47
田川郡	100	100	44
京都郡	25	139	38
築上郡	32	119	48

※印の郡は、市分離前の郡域。括弧の中の郡市は市分離後の郡市域。

表 9 1916-1926純入寄留率
(本籍人口1万人当, 1年当)

	(自郡内) 他町村から	(自県内) 他都市から	他道府県 から
福岡市		149	150
粕屋郡	106	200	237
宗像郡	18	23	16
(若松市)		745	647
(八幡市)		1,205	2,805
(遠賀郡)	165	220	633
鞍手郡※	159	208	362
嘉穂郡※	169	344	760
朝倉郡	17	15	14
筑紫郡	52	113	109
糸島郡	34	23	15
早良郡	15	110	160
久留米市		213	122
浮羽郡	9	14	10
三井郡	15	32	19
三潞郡	19	23	28
八女郡	20	14	9
山門郡	25	11	9
(大牟田市)		146	284
(三池郡)	84	53	178
(小倉市)		290	461
(門司市)		193	429
(企救郡)	60	99	268
田川郡	170	329	432
京都郡	19	33	31
築上郡	12	13	20

※印の郡は、市分離前の郡域。括弧の中の郡市は市分離後の郡市域。

人口移動の方向

前述のようにA県外へ(から)、B自県内他都市へ(から)、C自県内他町村へ(から)の出寄留(入寄留)の、三方向との人口移動が判明するのは明治21(1889)~28(1897)年(以下、前期という)、大正4年(1916)~昭和1(1926)年(以下、後期という)の二つの期間だけである。そこでこの二期間の純出寄留率と純入寄留率を表6~9に掲げて、人口移動の方向を吟味していきたい。

まず、寄留統計上の特徴として、本来、自郡内他町村どうしの出寄留と入寄留は、一致すべきものであるが、前期、後期とも入寄留率の方が高い郡が多く、さらに後期ほどその差が大きくなっている。これは当時の人が移動した場合、移動先にまず入寄留届を提出し、元居た場所に出寄留届(退去届)が出されなかった場合が多いことの証拠である。

さて、前期から見ていく。表7の純入寄留率では、福岡市、久留米市、企救郡(のちの小倉市・門司市を含んでいる)の数値が高く、都市の吸引力の高さを物語る。その流入元を

見ると、久留米市と福岡市は「(自県内) 他郡市から」のほうが「他都道府県から」より格段に高い(久留米市202>54, 福岡市153>95)。これに対応するように表6の純出寄留率の「(自県内) 他郡市へ」が、久留米市周辺の浮羽郡(23)と三井郡(31)が高く、また福岡市周辺の筑紫郡(29)と早良郡(43)が高くなっており、これら二都市は周辺郡部からの流入により成長したことが分かる。特に、久留米市はその傾向が強い。一方、企救郡の純入寄留率の「(自県内) 他郡市から」が197と高くなっているが、それ以上に「他道府県から」が414と圧倒的に高く、遠賀郡(のちの若松市・八幡市を含む)も同様に他府県のほうが高い。つまり北九州の諸都市は、他府県からの流入によって成長した。炭鉱を抱える鞍手郡、嘉穂郡、三池郡は「(自県内) 他郡市から」と「他都道府県から」は、ほぼ拮抗している。

そして、表6の純出寄留率を見ていく。人口の出入りが激しい福岡市と久留米市が「(自県内) 他郡市へ」と「他都道府県へ」のいずれも高い値となっている。「(自県内) 他郡市へ」の数値が一桁台となっているのは、八女郡のほかは、鞍手郡、嘉穂郡、田川郡と炭鉱を抱える郡となっており、炭鉱という就業機会が他郡市への流出を抑止したものと考えられる。

つぎに、後期を見ていく。表9の純入寄留率を見よう。福岡県と久留米市の「(自県内) 他郡市から」はそれぞれ149, 213と前期とほぼ同程度であり、県内からの流入は前期と同じペースであったが、「他都道府県から」が前期に比べ高くなった。それでも久留米市は依然として県内からの流入が優勢であった。この時期の最大の吸引力は、重工業発展を始めた北九州地区、特に八幡製鉄所を擁した八幡市であり、それに次ぐのは、これを支えた炭鉱の立地する鞍手郡、嘉穂郡、田川郡、それに大牟田市であった。いずれも、県内他郡市からの流入も増大したが、県外からの流入

がそれを凌駕した。その吸引力は、県内ばかりか県外にも及ぶようになったのである。これに対応するように表8の純出寄留率を見ると、農村地域では、県内への流出が、前期に比して格段に大きくなっている。

今後の課題

以上、福岡県の寄留統計を加工することによって、戦前期の福岡県内の人口移動の概観のスケッチは描くことができた。寄留整理や市町村合併による不連続を取り除くといった統計加工上の操作をおこなったことから、算出された数値は、1の位まで正確な数値とは言えないが、大まかな傾向を捕らえるのには有効であると考えられる。続稿では、ここで得たファインディンクスを、背景となる地域経済との関連で分析をおこないたい。

注

- 1) 以下の寄留制度と寄留整理についての記述は、梅村又次他『長期経済統計13・地域経済統計』(東洋経済新報社, 1983年) pp.52-54を元としている。また、斎藤修『賃金と労働と生活水準』(岩波書店, 1998年) pp.197-199「寄留制度とその統計」をも参照。
- 2) 斎藤修, 前掲書, pp.121-124および、大石嘉一郎, 西田美昭『近代日本の行政村』日本経済評論社, 1991年, pp.240-247, では、ある期間の増分をフローと捉えている。